

## 編集後記

皆様のおかげをもちまして、この度『早稲田大学教職大学院紀要第15号』を発行することができました。論文をお寄せくださった執筆者の皆様、刊行委員会を支えてくださった事務所の方々、そして論文の審査をご担当いただきました教育・総合科学学術院の先生方をはじめとする早稲田大学の先生方に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2022年度後半から世の中はコロナ禍を越えポスト・コロナ期にあるといえます。ポスト・コロナ期は、ICTによる学び方の多様化、感染防止によるコミュニケーション形態の変化が生んだ新たな人間関係、エッセンシャル・ワーカーとリモート・ワーカーとの働き方の二極化などの変化を受け止め、来るべき時代をどのように形成していくかの移行期でもあります。こうした中で、日々の教育実践に課題意識をもち取組み、真摯に実践をとりまとめ論文を投稿してこられた方々に敬意を表します。

この度、本紀要第15号刊行に際し9本の原稿が投稿されました。内訳としましては実践報告9本でした。昨年に引き続き、教職大学院修了者からの投稿が9本ありました。分野は昨年と比較し、探求学習、教科指導、学級経営といくつかの分野に集約された感があります。いずれにせよ、修了後もたゆまぬ実践や研究を重ねている修了者の皆様の研鑽の賜物で、「教職大学院の機能強化・高度化」にふさわしい道を当教職大学院が歩んでいる証かと思われまます。最終的な掲載論文は7本となりましたが、今後の更なる教育課題への追究と積極的なご投稿に期待します。

また、調査報告「教員の研修と学習ニーズに関する調査」が掲載されております。本調査は教職大学院の量的拡大をはじめ教員養成を取り巻く社会状況の変化の中で、様々な課題に直面した当教職大学院が将来構想を策定する上での検討資料とすることを目的として実施されたものです。

さらに、第20回学校教育学会報告は、2022年12月にリリースした『改訂生徒指導提要』についての研修会を報告したものです。「生徒指導提要改訂に関する協力者会議」の座長を務められた八並光俊先生（東京理科大学教授）をお招きした研修会では、八並先生の基調講演に続き、修了者の3名から『改訂生徒指導提要』をどのように教育活動に生かすかのご提案をいただきました。

以上、盛りだくさんの内容の『早稲田大学教職大学院紀要第15号』ですが、紀要に掲載された論文は、早稲田大学リポジトリというインターネット・サイトから広く全世界に公表されます。こう考えますと、それぞれの論文の社会的影響力は少なくないと言えます。そうした価値を受け止め早稲田大学の「進取の気性」を発揮していただきますことを祈念致します。今後とも、本紀要への皆様のますますのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

（紀要編集委員長 三村隆男）